

# 矢作川流域圏懇談会通信

H28 川部会編 vol.6



発行日：平成28年12月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

## ◆第36回川部会WGを開催しました！

11月11日（金曜日）に第36回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、広域サイクリングロード（自転車・歩行者道）構想、高橋周辺の河道保全対策について意見交換を行いました。



日時：平成28年11月11日（金）13:30～15:30  
会議場所：豊田市職員会館3F 会議室  
参加者：23名（事務局含む）

## ◆主な会議内容

### 1. 本日の話し合いでわかったこと



#### ■広域サイクリングロード（自転車・歩行者道）構想について

●第33回川部会WGにおいて、豊田市より提案のあった広域サイクリングロード（自転車・歩行者道）構想について、関係者を交えて検討を行いました。

●広域サイクリングロードの整備・利用により、以下の効果が期待できます。

①上下流交流の促進（流域連携テーマである木づかいや「砂の駅」構想※での活用等）

※「砂の駅」構想とは、矢作川ダムでの堆積土砂を海へ運ぶプランであり、流域連携テーマの一つとして検討しています。

②地域活性化

③河川愛護意識の育成・向上（ゴミ問題への理解、草刈りや清掃等）

●広域サイクリングロードの整備・活用にあたって、以下の課題が挙げられました。

①自転車の持ち込み方法（駐輪場設置の可否）

②拠点（自転車の駅、レンタサイクル等）の設置

③河川敷の自然や生き物への配慮

④矢作川の見どころ、視点場を意識したルート設定



出典：豊田市矢作川河川環境活性化プラン p.40

図 広域サイクリングロードの構想図

#### ■高橋周辺の河道保全対策について

●高橋の架け替え工事に伴う橋脚位置変更の影響により、高橋直上流にある瀬が引き落とされ、上流に向かって瀬が順に消失し、河道全体の河床低下が進行する可能性があります。

●現在、高橋上流の瀬の引き落とし対策として、豊田加茂建設事務所による分散型落差工の試験施工が実施されています。

●今回のWGでは、施工目的および全体の計画内容、施工手順、今年度の試験施工内容について概略内容を確認しました。

●高橋上流の分散型落差工は、全32基の施工が予定されています。今後予定されている右岸側仮締切時に左岸側河床を安定化させるため、平成28年度は、右図に示す左岸側の3基が試験的に施工されました。

●今後は、分散型落差工の施工に伴う河床状況の変化について調査し、河道保全対策としての有効性の検証を進めていきます。



図 分散型落差工の配置計画平面図

#### ■今後のスケジュールについて

●12月9日（金）第37回川部会WG：総合土砂管理における給砂実験の報告、白浜地区モニタリング報告

●1月20日（金）地域部会：川部会の今年度の活動報告及び来年度の活動方針について

## 2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。(・意見 ▶ 回答)

### (1) 広域サイクリングロード(自転車・歩行者道)構想について

広域サイクリングロード構想に期待される効果や現在の計画状況について事務局より説明し、意見交換を行いました。

- ・サイクリングロードは良い取り組みであると思うが、自転車は遠距離からの持ち込みが困難という課題がある。自転車の持ち込みについても検討すると良いと思う。(山本)
- ・なるべく河川敷を走るルートで整備できると良いと思う。(光岡)
  - 岡崎市では、全長約9kmの計画のうち約5kmが整備済みであるが、整備済みの区間については全て堤外地にルートを設定している。今後の整備区間のうち、家下川合流点のような支流合流点では、堤防を上げる形になるのではないかと想像している。サイクリングロードの整備により豊田安城自転車道とループ状になることから、価値向上も目指していきたい。(杉田)
  - 安全性を考えると、高水敷を主体としたルートを設定できると良いと考えている。(事務局)
- ・ルート設定時は、安全には十分に確保するとともに、河川敷の生き物や植生にも配慮したルートを設定してほしい。ぜひ相談していただきたい。(高橋)
- ・担当の部署はどこになるのか。(内田)
  - 岡崎市は、河川課が工事発注を担当し、公園緑地課が管理している。(杉田)
  - 豊田市は、工事発注から管理まで公園課が担当している。(早川)
- ・流域圏懇談会として、皆さんがお持ちの矢作川の見どころについての情報を出せると良いのではないかと。また、矢作川は樹林化が進んでいるため、高水敷のみのルートでは川が見えない場合もあると思う。景色の良いポイント等で逆に堤防上に上がる箇所を設けるのは良いかもしれない。(鷲見)



### (2) 高橋周辺の河道保全対策について

豊田加茂建設事務所が実施している分散型落差工の試験施工内容について事務局より説明し、意見交換を行いました。

- ・基本的に瀬というのは大事だということはわかっているが、浮き石という状態が再現できないと、瀬をつくっても生物生産性を高めるのは難しいと思うので、浮き石の条件というものを再現していくというのにも必要である。(服部)
- ・現在、3基の試験施工が実施されているが、これからその報告があがってくる。今の形がベストかどうかについても結果を見て議論していきたい。(加藤)
- ・悪い方向に行っても、良い方向に行っても、こういった結果があるという事例をみることができると、モニタリングはしっかりと実施していただきたい。できれば、横断方向に早めに入れられると良いと思う。(鷲見)
- ・橋脚位置の変更による瀬への影響は、事前に水理模型実験による検証も実施されていたと思う。(内田)
- ・高橋上流の左岸側では国交省により竹林の伐開と除根工を実施している。また、今後は河道掘削工事も予定している。高橋上流で河道掘削工事により低水路の断面を広げると流速が下がり、瀬の保全対策にもつながらるのではないかと。(内田)
  - 竹藪が無くなることも流速低下に寄与すると考えられる。(事務局)
  - 持続可能かつ適正な川幅の議論は、河川工学の分野でもまだ決着がついていないため、河道掘削による影響評価はしっかり実施していただきたい。(鷲見)
  - 河川整備計画で低水路の幅は決まっているが、以前のように絶対的なものではない。治水上の安全は確保されつつ、ほどよい瀬・淵ができて、動く石がたくさんある川になるような低水路幅を設定することが必要である。(事務局)
- ・杭出し水制工の施工については、具体的な話は出ているのか。(高橋)
  - 模型実験の際に必要なという結果が出たと聞いているため、実施する方向であると思われる。(事務局)

### (3) 振り返り

- よかったと思うこと:** 漁協関係の方に出席していただいた。/各項目について話し合いが進んだこと。
- よくなかったと思うこと:** 分散型落差工の利点について分かりづらかったので、模型実験の情報についても出していただき良かった。/愛知県の方にも参加いただき良かった。
- 今後取り組んでいきたい活動など:** サイクリングロードの管理・運営に関するルールづくり等に関する行政・市民・団体連携の展望/大出水による河床変動がどうなるか、未知なのでモニタリング(河床状況計測)を見守りたい。



## 今後の流域圏懇談会の予定



### ■第37回川部会WG

日時:平成28年12月9日(金)13:30~15:30 場所:豊田市職員会館

内容:給砂実験の報告(一部)、白浜地区モニタリング報告



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

